

【資料3】

飛行場・空港の概要

(1) 嘉手納飛行場 (FAC 6037 Kadena Air Base)の概要

嘉手納飛行場は嘉手納町、北谷町、沖縄市にまたがり、極東で最大かつ最も活発な米空軍基地である。第5空軍指揮下の第18航空団のホームベースとなっており、他のテナント部隊の役割と併せて、防空、反撃、空輸、支援、偵察、機体整備等の総合的な場所となっている。

常駐機や空母艦載機、国内外から飛来する航空機によってタッチ・アンド・ゴーなどの飛行訓練が行われている。

居住地区には、航空団司令部、兵舎、通信施設、家族住宅、診療所があるほか、銀行、郵便局、小・中・高校、幼稚園、図書館、野球場、ゴルフ場、体育館、映画館、スーパーマーケット等、多種の米軍支援施設があり、9,000人以上が生活している。

ア 所在地

- ・嘉手納町 (字水釜、字兼久、字嘉手納、字屋良、字野国、字国直、字東、字野里)
- ・沖縄市 (字諸見里、字山内、字森根、字白川、字御殿敷、字宇久田、字大工廻、字嘉良川、字上地)
- ・北谷町 (字伊平、字浜川、字上勢頭、下勢頭、字砂辺)
- ・那覇市 (字宮城)

イ 面積

- ・19,953千㎡

ウ 滑走路

- ・A=長さ3,689m × 幅91m
- ・B=長さ3,689m × 幅61m

エ 主な常駐機

・F-15 イーグル	戦闘機	約48機
・KC-135R ストラトタンカー	空中給油機	約15機
・RC-135	戦闘機	約1～2機
・E-3B セントリー	空中早期警戒管制機	約2機
・C-130 ハーキュリーズ	救難機	約5機
・MC-130 ハーキュリーズ	特殊作戦機	約10機
・HH-60 ペイブ・ホーク	救難機(ヘリ)	約9機
・C-12 ビーチクラフト	輸送機	約2機
・P-3C オライオン	対潜哨戒機	約3～10機
・その他、F/A-18ホーネット(戦闘機)、C-5ギャラクシー(輸送機)等が飛来		

(2) 普天間飛行場 (FAC 6051 Futenma Air Station)の概要

普天間飛行場は宜野湾市の中央に位置し、市面積の約25%を占めている。第3海兵遠征軍の第1航空団隷下36海兵航空群のホームベースとなっており、ヘリ部隊を中心として71機の航空機が配備され在日米軍基地でも岩国飛行場と並ぶ有数のヘリコプター基地である。

主としてヘリコプターの離発着訓練、旋回訓練が行われている。

施設内には滑走路、格納庫、通信施設、整備・修理施設、部品倉庫、部隊事務所、消防署がるほか、PX、クラブ、診療所等の福利厚生施設があり、航空機基地として総合的に整備されている。

ア 所在地

- ・宜野湾市（字宜野湾、字野嵩、字喜友名、字新城、字伊佐、字大山、字志真志、字大謝名、字佐真下、字神山、字赤道、字中原、字上原）

イ 面積

4,806千㎡

ウ 滑走路

長さ2,800m × 幅46m

エ 所属機（71機）

固定翼機（15機）

- ・ KC-130 空中給油機兼輸送機 12機
- ・ C-12 作戦支援機 2機
- ・ T-39 作戦支援機 1機

ヘリコプター（56機）

- ・ CH-46 中型ヘリ 24機
- ・ CH-53E 大隊ヘリ 15機
- ・ AH-1W 軽攻撃ヘリ 10機
- ・ UH-1N 指揮連絡ヘリ 7機

その他、F/A-18ホーネット（戦闘機）等が飛来

沖縄の米軍基地（平成15年3月 沖縄県基地対策室）より

(3) 那覇空港

那覇空港は、国際線、国内線の各ターミナル施設を有し国が管理する第二種空港に指定されており、成田、関西、新千歳と並んで国内では数少ない24時間運用空港である。平成11年度の年間離着陸回数はおよそ11万回におよぶ。

また、自衛隊那覇基地があり、海上自衛隊第5航空群、航空自衛隊等が滑走路を共有している。

ア 所在地

- ・ 那覇市（鏡水）

イ 面積

・ 3,260千㎡

ウ 滑走路

・ 3,000m × 45m

エ 常駐機

- ・ 自衛隊機：F4-EJファントム（戦闘機）、T-4（練習機）、CH-47J（ヘリ）、P-3Cオライオン等